

# 行政自治会だより

第15号

■発行所／古河市行政自治会 事務局 TEL 0280-92-3113 ■発行人／会長 五月女 光男

## 行政自治会視察研修を実施しました



(写真上段) 元栃尾表町地区まちづくり特別委員会リーダー おおみなとけんじ 大港 捲二氏による講演風景

(写真下段) 長岡市栃尾支所建設課酒井係長(写真右端)に活発な質問をする自治会長等の様子



平成27年度行政自治会視察研修は、去年11月27日(金)～28日(土)に、116名の参加のもと実施されました。

今回の研修は3部構成で実施されました。

第1部は、新潟県長岡市栃尾表町町内会による『雁木げんぎ(注)によるまちづくり』活動報告、そして、長岡市栃尾支所建設課係長 酒井俊明氏による「新潟県の取り組みについて」及び元栃尾表町地区まちづくり特別委員会リーダー おおみなとけんじ 大港 捲二氏による講演「住民、大学、行政による協働のまちづくり」を聴講しました。

第2部は、柏崎刈羽原子力発電所を、バス車窓から様々な安全対策に取り組んでいる構内施設の視察をしました。

第3部は、北朝鮮による拉致問題について、『いがた県政出前講座』として、新潟県知事政策局国際企画課拉致問題調整室長 伊野智彦氏による「拉致被害者等の状況と新潟県の取り組み等について」説明を受けました。  
※詳細記事 2ページ

(広報委員 梅津信男)

(注)雁木(がんぎ:深雪地域の市街地で庇ひさしを長く張出し、その下を歩道とした設備)

目次	P1 行政自治会視察研修を実施しました
	P2 新年のごあいさつ 行政自治会視察研修
	P3 地区紹介(第5地区)
	P4 市内歴史散歩(第13回)

## 新年のごあいさつ



古河市行政自治会  
会長 五月女 光男

あけましておめでとうございます。会員の皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、古河市合併10周年を迎え、行政自治会においても市と協働し、多くの記念事業を実施することができました。各事業において、より深い交流や成果も上がり、事業実施にあたり皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。

また、昨年9月に発生した大雨災害により被害に遭

われた皆様には、心からお見舞い申し上げます。このような大規模自然災害が多発する中、地域における顔のわかる関係や絆づくりが、より一層重要となっており、行政自治会の役割も高まっております。引き続き「行政自治会だより」等を通して様々な地域の情報を発信するとともに、まちづくりに欠かすことのできない行政自治会が中核を担い、地域力の向上や連帯感が高められるよう努めてまいります。

今後も「自分たちのまちを住みよくしていきたい。」という思いのもと、幅広い世代の方に地域活動への参加を頂き、自治組織の活性化につなげられるよう、ご支援とご協力をお願い致します。

結びに、今年一年が皆様にとりまして健やかで、素晴らしい年になりますよう、心よりご祈念申し上げ、新年のご挨拶といたします。

## 行政自治会視察研修



「2012年制作 想流の雁木」表町まちあるきマップより

11月27日（金）素晴らしい秋空のもと古河を出発し、一路最初の研修先である新潟県長岡市に向かいました。しかし、現地に着く頃には空模様が怪しくなり雨模様の天候となっていました。

そして、第1部の研修先である、栃尾文化センターに到着したときには雨となっていました。こちらでは最初に、長岡市栃尾支所建設課係長 酒井俊明氏より「住民、大学、行政を加えた3者によるまちづくり」の概要について説明を受けました。

この活動は、今年で17年目であるとのことでした。地元の新潟大学で建築を学ぶ学生の研究室が「雁木をまちづくりに活かそう」というテーマで実施しているとのことでした。雁木作りにあたっては、学生が地域住民の意見を取り入れたデザイン案を作成し、地域住民との意見交換を数回実施し雁木の設計書を作り上げ、最終的に投票で決めていくとのことでした。選ばれた雁木を実際に作るにあたっては、行政が予算面等の後方支援ばかりでなく能動的に関わることが長続きするとのことでした。

その後、住民の立場から栃尾表町地区の元まちづくり特別委員会リーダーの大港捲二氏より「住民、大学、行政とによる協働のまちづくり」について実際の活動状況について説明を受けました。大学生と住民の関わりについて、この雁木作りにあたって街を訪れた学生とお互いに挨拶する等、住民とのふれあいを大切にするることにより素晴らしい雁木が作られるとのことでした。

最後に「思いやりの心がなければ、人の輪は広がりません」の言葉が心に響きました。講演後は、バスの車窓より雁木の街を見ながら次の研修先である「柏崎刈羽原子力発電所」に向かいました。折しも発電所敷地内への入門については、パリで起こったテロの影響を受け厳重な警備を実施しており、その為入門手続きに相当の時間を費やしました。こちらでは、まず「同原子力発電所の安全対策」について施設職員からバスの中で説明を受けた後、低気圧の通過に伴う悪天候のなか、発電所構内をバスで一周しながら車窓より施設見学をしました。

構内見学も時間の制約を受けましたが、展望台より原発1号棟から7号棟の合計7基の発電設備を遠くに見ることができました。

初日の研修はこれで終了し、宿泊先に向かいました。

翌日28日（土）は、宿泊先のホテルのコンベンションホールにて、『にいがた県政出前講座』の「北朝鮮による拉致問題について」を受講しました。

前半は、アニメ「めぐみ」を鑑賞し、横田めぐみさんの拉致の状況、家族の思いをより一層知ることができました。その後、拉致被害者等の状況と新潟県の取り組み等の説明を新潟県知事政策局国際企画課拉致問題調整室室長の伊野 智彦氏より受けました。

今後、私たちがしなければならないことは、「拉致問題」に関心を持ち忘れないことであるとのことでした。

（広報委員 梅津信男）



※にいがた県政出前講座  
新潟県知事政策局国際企画課拉致問題調整室室長  
伊野智彦氏による講演風景

平成17年9月に1市2町の合併により、新生古河市が誕生したことに伴い自治組織も再編され、平成20年4月に「古河市行政自治会」が発足されました。

その際、行政自治会を小学校区や消防団区を基に20の地区に区分した“地区”も組織され、今回ご紹介させていただく第5地区も、古河第五小学校区を基に組織された地区の一つです。

当地区は、7自治会（中横、五丁目、栄、松原町、表新町、裏新町、鳥見町）で構成されており、現在は、1,336世帯が加入しております。

地区の範囲は、JR宇都宮線の西側で、北西に位置し雀神社の北側から古河第五小学校を含め、旧国道4号線（県道野木古河線）を挟んでショッピングセンター、会社、商店、住宅等があり密集している地区になっています。

また、当地区には、第十一代古河藩主土井利位の家老であり雪の結晶を発見した鷹見泉石の墓がある「正麟寺」、日蓮宗の寺で土井家の藩医で初めて解剖をした河口信任の墓がある「本成寺」、といった歴史にゆかりのある寺院があります。

当地区の活動状況ですが、コミュニティセンターなかよこを会場として「住民と利用者の地域活動の促進と教養文化の向上を図ることを目的」として、毎年9月又は、10月に「コミセン祭り」を開催しています。

毎回約百名の参加者があり市の職員による「健康についての講話」、愛好者による「日本舞踊やダンスの披露」、古河市出身の歌手による「歌謡ショー」等、いろいろなアイデアを出しながら参加者の皆様に満足していただけるよう活動しており、昨年10月の開催で第9回になります。

コミセン祭りを開催するたびに第5地区の住民の皆様との絆も益々強くなっていくものと感じています。



避難所体験。夜には、体育館でダンボールの布団を作りみんなで就寝体験をしました。

平成25年6月23日コミュニティセンターなかよこにて、第5地区「コミュニティあかしゃ」の設立総会が開催されました。

近年、生活活動の拡大や生活様式の変化により、地域における住民の連帯意識が薄れてきました。

そのような中、第5地区では、自治会を中心として古河第五小学校や各種団体と相互に連携協力し地域のつながりと再生を目指す目的で設立されました。名前の由来ですが、古河第五小学校の校歌に「あかしゃの並木みどり風涼し」とあり、

“あかしゃ”は、第5地区の象徴であり代名詞でもあるためにつけられました。



トイレ清掃に学ぶ

活動内容としては、◎避難所体験 ◎トイレ清掃に学ぶ ◎アカシャ祭り ◎森林体験 ◎ホテル観賞会 ◎防犯活動等の継続事業、そして新しい事業と知恵を絞って活動を行っています。

これからも、地域住民の皆様や関係団体の皆様との連携を密にし、よりよい町づくり、地域づくりを推進していきます。

以上で第5地区の紹介といたします。

（鳥見町自治会 会長 弓削重次）

## 第5地区 区域



## 市内歴史散歩（第13回）

国道354号線を古河方面から南下して、県道つくば古河線と交わる「釈迦北」交差点を直進してすぐの交差点を左折すると、ほどなく釈迦小学校に通じるY字路がありますが、今回は総和地区釈迦地内、この釈迦小学校の校門前から香取神社前を通過して水海方面へと至る道沿いを訪ねてみたいと思います。



金乗院本堂

最初の探訪は、釈迦小の向かい側にある金乗院という寺院です。金乗院は真言宗豊山派に属し、釈迦山世尊寺と号しますが、創建など詳しいことはわかっていません。本堂前には、江戸時代前期の延宝3年（1675）に造立された、阿彌陀如来が彫られた石仏があり、市内に残る石仏としてはかなり古い時期のものです。

本堂の西側には大きな忠魂碑が2基建っており、その左脇には観音堂もあります。中には聖観音が祀られ、葛飾坂東観音霊場第10番札所となっており、千年ごとに開帳されています。

また境内の南側には、江戸時代後期の明和5年（1768）に造立された宝篋印塔をはじめ数多くの石仏類もあります。

金乗院をあとにして南に進んで釈迦農村集落センターの前を過ぎると、道は大きく左に曲折し、香取神社の石鳥居が姿を現します。

この香取神社は、祭神が経津主命で、八坂・雷電・天神・巖島の4社が合祀されています。境内には昭和7年（1932）に建立された「お百度石」という石碑もあり、願い事が叶うようにお百度参りをした人が多くいたことがうかがわれます。



香取神社

神社を出て左に進むと、道は右に大きく曲折しますが、そこを反対に左折してすぐの路傍には、江戸時代後期から明治時代初期にかけて造立された十九夜塔が3基建っています。

もとの道に戻って南下して、大きな水路を渡ってすぐ右側の少し奥まった場所には、庚申堂がひっそりと建っています。堂内には江戸時代前期の延宝4年（1676）に造立された立派な庚申塔が祀られており、金乗院の阿彌陀石仏とともに市内でも古い石仏の一つです。

このように少し歩いただけでも、市内のあちこちらには、これまで大切に守り伝えられてきたさまざまな文物が残されています。ぜひ再確認してみたいはいかがでしょうか。

（広報委員 落合芳郎）



金乗院観音堂

庚申堂

### 編集後記

創刊号発行から15号となりました。地区紹介・歴史散歩の連載記事も好評をいただいております。今回の発行で広報委員の任期が終了いたします。最後の委員会では、編集会議のあと古河公方公園内足利成氏・古河城跡・頼政神社・土井家ゆかりの正定寺・本成寺など郷土史研究会田嶋元会長の案内で城下町古河の歴史を勉強しました。

ご愛読いただいた市民の皆様に委員一同心から感謝申し上げます。ことばといたします。有難うございました。（広報委員長 伊藤利彦）

### 行政自治会広報委員会

委員長

伊藤利彦

委員

横山泰男 生方隆雄 鈴木國雄  
中村和彦 荻谷武士 落合芳郎  
梅津信男 荒川篤志 黒木ヒサ子